

## 第2回 MINATOビジョン コ・デザイン会議

---



# 1. 全体の将来像について

### 伝統と新しさが、出会い続けてきた場所

港区には、時代を超えて受け継がれてきた歴史があります。

徳川将軍家の菩提寺となった増上寺などの寺社仏閣が多く残り、明治時代に日本初の鉄道が開業、昭和には東京タワーが建設されました。

地域に根差した文化を守りながら、社会の変化とともに、東京、さらには日本の中心となる国際都市として発展を続けてきたまちです。

鉄道・船・飛行機と結ばれた充実した交通網に加え、メディアが集まり情報発信の拠点となっています。

博物館や美術館が文化を育み、企業や学校、病院が集うまちには、国内外から多くの人が行き交っています。

東京の中でも水辺に面しているのは、港区の特徴です。

台場や芝浦港南など、海や運河が都会の風景の中に広がり、四季の移り変わりを楽しめる公園もあります。

都市の利便性と自然の豊かさ、その両方を感じられる、これこそが港区の魅力です。

そして、港区には「人」の温かさがあります。

発展したまちの中でも、昔ながらの商店街や町会・自治会が息づき、人と人とのつながりが根付いています。

多くの外国人が暮らし、駐日大使館の半数以上が集まり国際性に富んだ港区は、多様な文化が調和しながら、ともに過ごしています。

この混ざり合う土壌が、人の温かさで新しい出会いを育んでいます。

受け継がれてきた歴史や文化を大切にしながら、新しさを受け入れてきた港区。

その歩みの積み重ねが、今の港区を形づくっています。

一方で、将来を見通すと、全国的に人口減少が加速し、超高齢社会が進行していきます。働く世代の人口減少により、労働力が不足する時代が到来します。港区においても、地域コミュニティの衰退や首都直下地震をはじめとする自然災害の脅威など、都心特有の様々なリスクが待ち受けています。

こうした社会課題を乗り越え、明るい未来へ進んでいくために、2040年代という将来を見据えて、希望ある港区の姿を描きます。

## 2040年代の港区の将来像

今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。  
「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、  
一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち。

### 歴史と未来

新しい風が吹く  
まち

これまで大切にしてきた歴史や文化を礎に、時代の変化を受け止め、先端技術を活用しながら、新たな価値を創造し、日本有数の都市として新しい風を巻き起こしています。  
人々が出会い、アイデアが生まれ、暮らしが豊かになっていく。  
次の世代へとつながるこのサイクルが、港区を明るい未来へといざなっています。

### 都会と自然

美しく心やすらぐ  
まち

誰もが魅力を感じる都会でありながら、そこには心が穏やかになる居場所があります。  
輝き潤う水辺の景色や木漏れ日が差し込む公園。  
まちがデザインされていく中で、水や緑が彩を織りなしていく。  
美しい都市とともに、自然を身近に感じながら、心癒されるやさしい日常を過ごしています。

### 地域と世界

みんなが支え合う  
まち

港区には、暮らす人だけでなく、働く人や訪れる人も多く集い、にぎわいを見せています。  
年齢や国籍に関係なく、世界中から集まった人同士が交流し、分け隔てなくつながっています。  
互いに助け合い、支え合う。  
多様性を受け入れる包容力と思いやりの心が、地域や世界を超えて広がり、誰もが安心して暮らせるまちになっています。



これまでの歩みを大切にしながら、社会課題を乗り越え、新しい未来を創っていく。  
港区という輝く舞台で、一人ひとりが自分らしく、幸せに過ごせるまちが実現しています。

## 港区が大切にしていこう

理想の未来を実現するためには、想いを一つにすることが不可欠です。  
誰もが幸せを感じられることを目指し、  
港区に関わる人たちが協力し合いながら歩みを進めていきます。

### 一人ひとりの幸せを実現する

人々の境遇や立場は様々です。  
そのような中でも、一人ひとりの気持ちや考えを大切にしながら、  
人を思いやる心と地域のコミュニティを育んでいきます。  
人と人との絆を紡ぎながら、子どもから大人まで港区に関わる全ての人が幸せ  
を感じられるまちを実現していきます。

### 地域みんなで未来をつくる

港区には、地域に想いを寄せる、たくさんの人たちがいます。  
区民をはじめ、働く人や学ぶ人。  
そして、企業や学校、NPO、町会・自治会、商店会など。  
港区という輝く舞台で、それぞれが可能性を最大限に発揮しながら、  
港区に関わる人が手を携えながら、一緒に未来をつくっていきます。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
コバーチ委員	英語力を高めることで、港区の子どもたちは将来、自信を持って海外で活躍できるようになると考えられる。
	子どもたちが将来異文化を受け入れやすくするためには、小学校や幼稚園など早い段階から異文化に触れる機会を設けることが必要である。
	グローバル化が進む現代では、互いの文化を理解・受け入れ、支え合うことが非常に重要である。
遠藤委員	多様性を受け入れる包容力や思いやりに加え、異なるバックグラウンドの人同士が会う機会を増やすことや、多様性を包摂できる人材の育成も重要だと考えられる。
	多様な区民の声を把握するには、行政が積極的に現場に出向いて意見を聞いたり、区内のさまざまなコミュニティのハブを活用して意見を集めることが重要だと考えられる。
古長谷委員	歴史と未来都市と自然地域と世界っていうところが、まさしく港区ならではの価値観にしっかり繋がっている。
	若者が地域にいても存在が見えにくい現状があるが、今回の将来像が実現すれば、その課題が前向きに解消されると感じている。
杉山委員	時代の変化を受け止め、先端技術を活用しながらという点は港区らしい姿勢である。
	多様性と包容力を重視し、若者や外国人が地域行事や街づくりに参加できる仕組みを作ることで、世代や国籍を超えた交流が生まれ、より良いまちになると考えられる。





## 2. 分野別の将来像について

## 子どもたちとともに描く。 今を生きる子どもを未来へつなぐまち

今を生きる子どもたちも、やがて大人になります。  
子どもも大人も、今だけでなく将来にも希望を持てるまちをつくることで、未来の子どもたちの希望につながります。  
希望のサイクルが将来へと続き、誰もが笑顔で過ごせるまちが実現しています。

### 子どもたちがのびのび と過ごせるまち

2040年代の港区では、遊具が充実した公園や安全に遊べる場所、わくわくする環境が整い、子どもたちがのびのびと過ごせるような、子どもが一人でも安心して出歩けるまちになっています。  
子どもの成長に合わせて、学んだり、ゆっくり過ごせる居場所がいつでも誰にでもあり、一人ひとりがやりたいことを自由に選べるようになっています。

### 子育てとやりたいこと を両立できるまち

子どもを望む人が理想とする人数の子どもを安心して生み、育てられるようになっています。  
必要な数の保育施設や学童クラブなどが整い、子育てと仕事など、やりたいことの両立につながっています。  
きめ細かな保育サービスが充実し、子育てをしながら多様な生活スタイルを実現することができています。

### 子どもを地域で育む まち

地域との交流を通じて、様々な人々と出会い、学び、助け合いながら、子どもを地域で育てています。  
小さな子どもから中高生、保護者まで、誰もが一人で悩みや苦勞を抱えるのではなく、声を上げづらい人たちの声も拾いながら、地域で見守り、支え、相談できる環境が身近にあることで、子どもや家庭の孤立がなくなっています。



将来へ希望のサイクルがつながる、笑顔あふれるまちへ。  
子どもや大人にやさしく、誰もが将来に希望を持って、笑顔で過ごせるまちになっています。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
森山委員	<p>声を上げづらい子どもたちの声を拾えるまち、という観点をぜひ入れさせていただきたい。（虐待、性的マイノリティ、外国籍、ひとり親家庭、貧困など）</p> <p>虐待貧困等でなくても中高生世代というのは、親も子育てが一段落しており、なかなかニーズを把握しにくい。また、中高生本人も完全な子どもでもない中間の年齢として非常に声が反映されづらい。そうした中高生の声も政策に生かせるよう追加してほしい。</p>
古長谷委員	将来像が実現することで若者が自分らしい生き方や働き方を選べる港区になると期待している。
杉山委員	次世代を地域全体で支えると記されており、世代を超えて学び合える環境づくりが期待できる。

※青字の意見を踏まえ将来像案の修正を行いました

## 孤立させない地域の輪をつくる。 お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市



高齢者や障害者、生活に困っている人など、誰にでも社会の中で居場所があり、自分に合ったサポートを受けながら、健康で安心して穏やかに暮らしていけるまちになっています。

### 誰にでも居場所があり、 互いを支え合うまち

互いに声をかけやすい環境をつくることで、気軽なコミュニケーションを通じて支え合う地域のつながりが、都心ならではの形で築かれています。  
集合住宅における社会的孤立を乗り越え、年齢や障害の有無などにかかわらず、趣味や仕事など、それぞれが叶えたいと思うことを実現できる居場所があり、社会から孤立する人がいなくなっています。

### 身体に向き合い、 健やかに暮らせるまち

一人ひとりが心身の体調に気を配りながら健康づくりに取り組むことで、健やかな生活を送り、健康寿命の延伸につながっています。  
病気の際には、身近な診療所から大きな病院まで、治療方法など多様な選択肢の中から、自分の希望に合った医療サービスを引き続き受けることができます。  
妊娠しているときや出産した後も、助産師や同じ境遇の人と悩みを相談できるなど、互いに支え合いながら安心して子どもを産める環境が整っています。

### ニーズに合ったサービスが受けられるまち

介護サービスや障害福祉サービスを受けられる場所が身近にあり、介護や支援を必要とする全ての人が、安心してサービスを利用できるまちになっています。  
介護や障害福祉の現場で働く人がいきいきと働ける環境が整っており、介護や障害福祉を志す人が増え、高齢者や障害者などは、ゆとりある環境の中で、手厚いサービスを受けることができます。



2040年代の港区では、様々な人が手を携え、支え合う地域社会が実現しています。  
誰もががやさしさを感じられる居場所の中で、みんなが自分らしく暮らしています。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
金委員	「孤立させない地域の輪をつくる。 お互いが支え合い一人ひとりが自分らしく暮らせる健康福祉先進都市」というこのスローガンは、今後目指す姿として非常に大事な内容が、まさに凝縮されているなと感じた。
	孤立・孤独は今後もみんなで考えるべき重要なテーマであり、港区では公的サービスの向上だけでなく、地域住民同士の支え合いの仕組みも再構築する必要がある。
	支えられるだけでなく支える側にもなり、誰もが役割を持つことが重要。そのためには、地域の人々がお互いを知り、交流できる居場所やきっかけが必要であり、今後そのような場が増えてほしい。
	介護福祉分野の担い手不足を解消するため、誰もが働きやすい環境づくりが港区で実現できると良い。また、公的介護施設の適切な運営には行政の支援や地域住民のボランティア活動が今後さらに活発になることが重要である。

## “ひと”をまんやかに“港区ならではの”をつくる。 これまでの紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち



2040年代の港区は、歴史と新しさが調和しながら、美しい街並みや水辺の潤いに包まれた快適な環境が備わっています。誰もが安心して暮らせる都市の中で、地域のコミュニティが活気を生み、にぎわいと癒しに満ちた人中心のまちが実現しています。

### 港区の魅力が際立つ 美しいまち

東京タワーや歴史ある建物など港区らしさを感じさせる風景が残りながら、大使館や企業が集まる多様性・先進性と共存し、美しくデザインされた都市となっています。  
運河や台場の海にはイルカが訪れるほどきれいな水辺が広がり、四季折々の花や木々がまちを彩ります。  
最先端のモビリティが快適で安全な移動を実現しています。  
防災や防犯、環境保全など、あらゆる面から持続可能な生活を支えるインフラの整備が進んでいます。

### 人々の暮らしと活動を 支えるまち

港区は、区民はもちろん、港区に関わる全ての人々の活動を支えています。  
世界中から訪れる人々が言葉の壁を感じることなく交流しています。  
子どもが一人で外出できるほど安全で、まち全体がバリアフリーで高齢者や障害者も安心して過ごせる、誰にとっても過ごしやすいまちになっています。  
在勤者や在学者も、地域の活動やお祭りに参加するなど、様々なコミュニティが街中に活気をもたらしています。

### みんながワクワクする まち

水辺では、多くの人々が潤いを感じながら散策やイベントを楽しみ、海水浴を満喫しています。  
公園では、子どもたちが元気に遊び、立ち寄る人は緑に囲まれながらリラックスして過ごしています。  
カフェやレストランでは、様々な人が集まり、世代や文化を超えて日々新しい出会いが生まれ、人と人との輪が広がっています。  
港区は、日常の中に心躍る瞬間があり、笑顔や楽しさにあふれています。



独自の魅力や強みを生かしながら、いつでも人を中心にまちづくりが進んでいます。  
港区に関わる全ての人々のワクワクする心が、未来へつながるにぎわいと癒しに満ちたまちを実現しています。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
泉山委員	<p>住みやすい町づくりには、ハード（施設や設備）とソフト（サービスや仕組み）の融合が重要であり、港区ではグローバルスタンダードを目指す視点も大切である。</p> <p>最近パリに行ったが、道路や公園それから運河、ウォーターフロントといった身近な場所が居心地のいい場所にやっぱ変わっている。</p> <p>フランスのパリにもちょっと行ったんですけども、「15分都市（15-minute city 構想）」とか「ウォークブル・シティ（Walkable City）」のことで、やはり身近な場所を道路や公園それから運河、ウォーターフロントもあると思いますけども、そういった場所が居心地のいい場所にやっぱ変わっているというふうなところがあります。</p> <p>総合計画は抽象的になりがちなので、実現プロセスを具体化することが重要である。そのためには市民・企業・行政の連携や、縦割りを超えた部署間の協力が必要。また、政策は政治的判断だけでなくデータやエビデンスに基づいて進めることが大切である</p> <p>区民と共に行動や実験を重ね、失敗を恐れず完成形を急がずに、港区らしい街づくりをみんなで進めていくことが望ましい</p>



## みんなの意識と行動が未来を変える。 自然が暮らしを彩るサステナブルシティ



個人、企業、行政、それぞれのアクションが、持続可能な港区への大きな一歩となります。  
都市の便利さと自然の豊かさが美しく調和した新しい暮らしが、未来へと続いていきます。

### 脱炭素型のまち

2040年代の港区は、サステナブルに調達された再生可能エネルギーがまちの隅々まで行き渡り、持続可能な発展を実現しています。  
エネルギーステーションが街中にあり、環境負荷の少ない電気自動車や水素自動車などエコフレンドリーな移動が当たり前になっています。  
区民や企業、行政が同じ方向性や価値観を共有しながら連携し、新たな技術を積極的に取り入れ、国内外から注目される世界に誇れるエネルギー先進都市となっています。

### 都会と自然が共生するまち

まちが発展する中でも、身近に緑があふれ、みんなが楽しめる水辺があり、そして、星空が見える空気のきれいなまちになっています。  
公園や街路樹など緑が一層豊かになり、多様な生きものと共存ができています。  
まちの発展と自然保全のバランスが保たれ、「自然と共生する都市」が実現しています。

### 3Rで循環型のまち

リデュース、リユース、リサイクルが人々の生活に馴染んでいます。  
食品ロスがなくなり、ペーパーレスが推進され、ごみが排出されにくくなっています。  
不要なものは「譲り合いスペース」で再利用され、地域全体で資源を大切にする意識が根付いています。  
ごみがきちんと分別され、資源を無駄なく循環させる社会が実現しています。  
港区で生活する全ての人が「環境問題を自分ごと」として捉え、行動が変わっています。



2040年代の港区は、一人ひとりが主体となって持続可能なまちに。  
まちの発展と自然が共生し、誰もが安心して暮らせる未来があります。

※黄色は報告会での意見を踏まえ修正した箇所です



●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
藤原委員	環境リサイクル分野は「～しなければならない」といった言葉が多くなりがちだが、2040年代の理想像に向けて前向きな提案がされており、実現できそうでワクワクする発表だった。
	港区の区民は環境意識が高い人が多いが、今後はそのような前向きな人をさらに増やし、裾野を広げることが重要である。特にシニア層への意識改革や学校教育が大切であり、これには地道な活動が必要だと考えられる。
	事業者には先進技術の導入など多くの役割が求められている。また、港区は働く人が多い地域であるが、社員一人ひとりへの意識徹底がまだ十分とは言えない。今後はこれらの点も含め、事業者として必要な取り組みを進めていく必要がある。
	港区のあるべき姿を考えると、国際都市として世界に誇れる環境都市を目指すべきである。大使館の多さや羽田の玄関口など、国際性をビジョンに反映していく必要がある。
	エネルギー事業者は、脱炭素のまちづくりに際して再生可能エネルギーの普及と最新技術の実現が重要である。また、エネルギーが災害時にも安心して使い続けられるよう、街づくりや防災など関係部門と連携し、安定供給に努める必要がある。
	港区が取り組むべきことは、事業者と区民が同じ方向性や価値観を共有し、一体となって協力することである。そのためには、対話の場をさらに増やし、新技術導入への支援も充実させる必要がある。

※青字の意見を踏まえ将来像案の修正を行いました

## 今と未来を守るために備える。 住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ

地域の絆が強固に結びつき、テクノロジーも積極的に活用しながら、災害に強く、犯罪被害のないまちで、誰もが安心して暮らすことができます。

一人ひとりの日々の備えと互いへの思いやりが、様々な危機を克服し、まち全体の安心を大きく高めています。

### コミュニティで 助け合うまち

住民同士が顔の見える関係を築くことで、災害時の助け合いの精神が育まれ、犯罪の抑止にもつながっています。

防災・防犯組織の結成も進み、防災や防犯を「自分ごと」として考えながらコミュニティに参加する人が増え、地域の暮らしの安全を支える力となっています。

### 災害を低減するインフラ整備が進んだまち

マンションをはじめとする全ての建物の不燃化や老朽化対策が進み、災害時には緊急車両が通行できるよう道路の安全が確保されるなど、自宅に必要な支援を受けながら安心して避難できる、強固な基盤が整っています。

万が一避難が必要となった場合でも、ペットと住民と一緒に過ごせるなど、多様なニーズに対応した避難場所が整備されています。

### テクノロジーを活用し 暮らしを守るまち

2040年代の港区では、テクノロジーの発展が、様々な災害・犯罪対策に生かされています。

個人が持つ情報デバイスは進化を遂げ、防災・防犯に関する情報は全ての人に正確かつ瞬時に発信、住民もテクノロジーを正しく活用し、確実な対策を講じています。

人と地域がつながる港区では、こうしたテクノロジーの積極的な活用により、災害に強く、犯罪被害のない、住民が安心して暮らせるまちを実現しています。



テクノロジーを積極的に活用しながら、地域で支え合う未来の防災・危機管理のまちへ。  
一人ひとりが地域の担い手としての意識を持ち、安心して暮らせるまちが実現しています。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
大木委員	<p>15年後を見据え今後、若い防災の担い手を増やしていくためには、今のうちから防災教育をしっかりと行うことが重要であると考えます。子どもたちにしっかりと防災を学んでいただくことが重要である。</p> <p>港区は教育水準が高いが、防災面ではまだ改善の余地がある。学校で学んだ防災知識を地域の防災訓練などで活かし、子どもから大人まで地域全体で実践できるよう、防災教育に力を入れるべきである。</p>
杉山委員	<p>子どもや誰もが安心して暮らせる、災害や犯罪に強いまち、学生の視点からも安心できるまちになると考えられる。</p>

## 文化と芸術がまちを織りなす。 人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ



2040年代の港区は、経済、文化芸術、国際性、地域という多様な価値が重なり、区に関わる全ての人が主役となって、新たな価値を創造するまちへと発展しています。誰もが心豊かに暮らせる未来が、そこには広がっています。港区のブランド力が確立され、世界から多くの人や企業が集う国際経済都市として、最先端の技術を創造し、イノベーションを巻き起こしています。

### 創造と交流があふれ、 進化するまち

スタートアップをはじめとする多様な企業や大学が連携し、文化芸術やテクノロジーを掛け合わせた新たな価値が創出され、世界に希望と活力を届けています。ビルはシェアオフィスやクリエイティブスペースとして有効に活用されており、個人店や商店街には国内外から多くの人々が訪れ、活気にあふれています。水辺エリアは世界中の観光客が訪れる憩いの場となり、港区の魅力が一層高まっています。観光も産業も「港区らしさ」を大切に、経済性だけに偏らない個性を引き出すまちづくりを、地域が一体となって進めています。

### 世代も国籍も超えて、 つながりが広がるまち

町会・自治会などの地域コミュニティは、企業や学校とも連携し、デジタルとリアルを組み合わせるなど、誰もが参加しやすい新たな形へと生まれ変わっています。地域活動や様々なイベントも盛んに行われ、世代や国籍にかかわらず安心して暮らせる地域のつながりが育まれています。「港区に関わる全ての人が主役」となり、地域への愛着が根付いたまちになっています。

### 世界と歴史が出会う、 文化が息づくまち

港区は、世界とつながる玄関口として、多様な人々が訪れ、国際色豊かな都市へと発展しています。外国人が地域に愛着を持ち、大使館等と地域コミュニティの交流など、多文化共生社会が実現し、歴史的建造物と先端的都市機能が調和した中で、一緒にまちづくりに参加しています。日本の伝統や文化を大切に守りながら、世界の舞台芸術や文化イベントが催されるなど、国際的な拠点として成長し、地域性と国際性が調和した「世界に誇れる文化芸術都市」として、その独自性を輝かせています。



文化芸術と多様な交流が広がり、誰もが安心して暮らせるコミュニティがにぎわいを生み出しています。経済、文化芸術、国際性、地域の価値が重なり、日本の未来をリードする都市モデルを築いています。

●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
佐々木委員	グローバルクリエイティブシティ、とてもいい言葉だと感じた。企業やスタートアップ、大使館など国際的な組織が集まる強みを生かし、一緒に挑戦をしながら実装を進めることが重要である。これにより、産業の活性化や新しい文化・働き方の広がりが期待できる。
	水辺エリアは港区の大きな資源であり、昼夜問わず楽しめる空間をつくることで区の魅力が更に高まる。特に夜のにぎわいづくりが今後の重要な課題であり、先端技術を活用して水辺から国際観光都市を目指すべきだと考える。
	港区がナイトタイムや最先端エンタメの特区になれば、多様な挑戦が集まり、ビジネスを超えて人が集まる国際都市として港区ブランドを進化させることができると感じた。

## 今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。 学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市



港区の歴史・文化・伝統を大切にしながら、テクノロジーを生かした未来へ、世界に拓かれた学びの形が育まれています。一人ひとりの個性が大切にされ、誰もが自分らしく関わり、地域とともに育まれ、様々な学びに触れています。

### 安全・安心ないきいきしたまち

子どもたちが自分らしく学び、自ら考えながら、のびのびと成長できる教育環境が整っています。学校にとどまらず、家庭や地域でも、それぞれの個性に合わせた多様な学びの形がつくられています。教員だけでなく、保護者や地域の人々も一緒に関わるものとして広がり、互いの対話によって、信頼し合える関係が築かれています。港区全体が子どもたちの未来をやさしく育むまちとなり、安心して安全に、楽しく学べる毎日が実現しています。

### 歴史や文化に親しむ心が育つまち

港区の歴史や文化、伝統を次の世代へと受け継ぎながら、家庭や地域コミュニティの中で思いやりやさしさが育まれています。その中で、国や地域のアイデンティティを理解し、大切に思う心や道徳心が養われています。学びの場は、地域にも広がっています。図書館は身近な学びの場として活用され、公園などまちの様々な場所が気づきや発見の場となっています。企業や大学といった、港区ならではの地域とのつながりによって、多くの外国人も含めて、誰もが生涯を通じて自分のペースで学びを楽しんでいます。こうした学びの積み重ねが、自分たちのまちや国を思う豊かな心を育てています。

### テクノロジーで人の可能性を高めるまち

テクノロジーの力を工夫して活用することで、多彩な学びが広がり、創造性や判断力など、人間らしい力が更に高まっています。テクノロジーの進歩は、地域と世界の距離を縮め、世界中の多様な文化や考え方に触れながら、世界全体を見渡す広い視野で学ぶ機会が自然と増えています。技術が発展する中でも、スポーツや体を動かす機会が大切にされ、人の感性やひらめきがますます輝き、いつまでも元気に過ごせています。



地域や歴史、伝統文化を大切にし、世界に進展したグローバル化やテクノロジーに対応した教育都市へ。2040年代の港区は、学びを通して人と地域がつながり、未来をともに創るまちが実現しています。



●タウンフォーラム報告会でいただいた意見一覧

委員名前	意見要旨
中川委員	子どもだけでなく大人もステークホルダーとして捉え、保護者や地域、教員が学びを作れるよう、働き方改革にも配慮してくれている。
	孤立を防ぐコミュニケーションや協働的な学びが重視されている。日本の伝統と国際的視点、テクノロジー活用と人とのつながりも両立し、全体的にバランスの取れた議論がされている。
	AIの活用については「人間中心アプローチ」が重要であり、AIをパートナーとして使いこなすことが求められる。AIが苦手な意思決定や新しいルール作りは人間が担い、教育の場でも人間の体験や価値観を重視したプラットフォームが必要である。
杉山委員	次世代を地域全体で支えると記されており、世代を超えて学び合える環境づくりが期待できる。

